

子どもたちの「知りたい！意欲」を高める学校図書館

ー自然体験と調べ学習とをつなぎ、実りある学びをつくるー

「子どもたちは自然体験が不足している」と心配の声をよく聞きますが、市内北部の本校では自然に囲まれた環境ならではの体験的な学習を、学校をあげて行っています。

毎年1学期に、冬にも水を張ったままにしておいた田んぼにどんな生き物が生息しているのか、調査します。今年の新たな発見は、調査を開始してから初めて水生昆虫のタイコウチが見つかったことでした。そこに注目した5年生のKさんは「タイコウチはなぜ見つかったのか」をテーマに調べはじめました。

タイコウチは長いしっぽと大きなカマを持った、水生昆虫の中では強者ですが、全国的に近年は減少傾向にあります。学校司書は、「水生昆虫」や「田んぼの生き物」といったキーワードで本を選び出し、10冊近くの本を提供しました。彼女は数冊の本を比べ読みしながら「タイコウチの生息場所としては池や沼、水田など流れがないところ」ということや「エサはオタマジャクシやヤゴ、天敵はヨシノボリやサギなどの鳥類」などと調べていきました。それらの情報から、「田んぼの生き物調査結果では、今年はエサとなるオタマジャクシが増えていたので、タイコウチが現れたのではないか。」と推察していました。更に「タイコウチは暖かいところを好む」ということから「今年の5月頃は例年よりも暑い日が続いていたので、これも理由の一つとなるのではないか」と考えていました。この報告書を発表する時、Kさんは「これからも学校の田んぼをタイコウチが住みやすい環境にしていきたい。」とも発言していました。

授業での調べ学習終了後、休み時間に学校図書館へ来て「もっと調べてみたくなったから家でお母さんと一緒にインターネットで検索をしてみた。タイコウチが見つかったら、近くにタガメもおることが多いらしいよ！今度はタガメも調べてみたい！」と得意そうに教えてくれました。子どもの「知りたい！」という知的好奇心は、どこまでも留まることを知らないのです。

身近な自然体験から発した、その子らしい問いを受けて、タイムリーに学校図書館で調べることができ、一人一人の学びが深まるよう、学校司書として応援したいと思います。自然との関わりを楽しみながら動植物の生きる知恵を学ぶ、という実りある学びを、教職員と力を合わせて、創り出していきたいと取り組んでいる毎日です。